

令和 4 年度業務実績報告の概要

1. 重点項目の進捗状況、成果及び評価

令和 4 年度は第 3 期中期計画改革実施期間の 2 年目を迎え、理事長の下に魅力化推進本部を設置し、「地域貢献日本一」の目標に向かい様々な視点から大学改革を進めた。

重点分野 1：県民からの期待に応える存在意義の高い大学

- 短期大学部では学科名称の変更に加え、情報教育の充実と司書養成課程の設置を含む教育課程の変更について文部科学省へ届出を行った。令和 5 年 4 月に総合文化学科は文化情報学科に名称変更され、司書養成課程が新設された。
- 地域の人材ニーズに対応するため、浜田キャンパスにおいて経営情報系の教育・研究のあり方について検討を開始した。

重点分野 2：地域に貢献する人材を輩出する大学

- 県内の高校・特別支援学校・県教育委員会との令和 4 年度高大連携活動実施件数は 89 件で、16 校の高校等の魅力化コンソーシアムに参画した。また、新たに安来市で高校生と大学生、社会人が共に学ぶ新たなプロジェクトとしてキャリア講座「KENDAI 未来アトリエ」を実施した。
- サテライトキャンパス「石見銀山まちを楽しくするライブラリー」の在り方や地域住民との交流、地域の賑わいづくりについて学生が中心となって検討を進め令和 5 年 4 月に開設した。
- 地域の商工団体等と連携して人材の県内定着のため、業界・企業研究フェアやしまね就職オンラインマルシェなどのオンラインイベントの他、バスツアーなどの対面でのイベントも行った。
- 「しまねの未来を担う人財奨学金」制度の趣旨に賛同いただいた寄付企業が増えたことで制度を拡充し、昨年度より 14 人多い 22 人に奨学金を支給した。
- 島根電気株式会社との新たな長期有償型インターンシップを実施した。学生目線で会社や社員の魅力を広報した結果、第 6 回学生が選ぶキャリアデザインプログラムアワードで優秀賞を受賞した。

重点分野 3：地域が抱える諸課題に対応する研究及び教育を重視する大学

- しまね地域国際研究センターでは、島根県が抱える地域課題に関する研究等計 10 件分の研究を支援した。また、学生の地域活動を支援するための地域貢献推進奨励金では計 31 件が採択された。これらの研究・取り組みの成果についてオンライン開催された「KENDAI 縁結びフォーラム」で発表した。

重点分野 4：国際交流・海外留学等の促進

- バーチャル国際交流や異文化研修などのオンラインでの交流を実施した。また、韓国やアメリカ等の海外協定校へ留学生を送り出したほか、アジア文化研修や海外英語研修、韓国短期留学支援を行った。
- 北京語言大学との包括連携協定の締結や蔚山大学校とのダブルディグリー制度の拡充など、学生が海外で学ぶ機会を増やした。

重点分野 5：理事長学長のリーダーシップのもと機動的かつ戦略的な運営を行う大学

- 「入試改革・高大連携推進室」「キャリア戦略推進室」「IR 推進室」「広報推進室」「情報基盤推進室」でそれぞれ現状、課題分析と制度の構築、充実を図り島根創生に資する大学改革を着実に推進した。

2. 業務実績の評価方法

- 法人が自己評価を行い、これをもとに島根県公立大学法人評価委員会が検証・評価を実施。
- 「大学の教育研究等の質の向上」以外の中期目標項目については、5段階で自己評価。
 （「教育研究等」については、評価委員会が「特筆すべき点」「遅れている点」として評価）

3. 実施状況

○自己評価の状況

	社会情勢の変化に 的確に対応した 大学づくり	自主的、自律的な組 織・運営体制の確立に 関する目標を達成す るために取るべき措 置	評価制度の充実及び 情報公開の推進に関 する目標を達成す るために取るべき措 置	その他業務運営に 関する重要事項に 関する目標を達成 するために取るべ き措置
R4	A (4.00)	B (3.00)	B (3.00)	B (3.00)

4. 総評

- ・第3期中期計画改革実施期間の2年目となるが、計画を概ね達成し、順調に改革を実施できたものと判断する。
- ・引き続き、県内入学者の増加、地域人材育成のための教育プログラムの充実、卒業生の県内定着に向け一層の取り組み強化を図っていく。

また、魅力化推進本部を中心に大学改革の実現に向けた取り組みを機動的かつ着実に実施する。

(参考) 年度計画項目別評価の評価基準

120%	評点5
進捗度 101%	評点4
90%	評点3
70%	評点2
0%	評点1